

文部科学省私立大学戦略的基盤研究形成支援事業

「新規分子標的治療薬創薬に向けた大学発ベンチャー基盤の確立」

Annual Meeting-2018 報告書

日時：2017年9月13日（木）13：50～17：30

場所：京都薬科大学 愛学ホール

参加者数：175名（教職員 45名、大学院生 16名、学部生 111名、その他
（卒業生 3名）

本私立大学戦略的基盤研究形成支援事業プロジェクト「新規分子標的治療薬創薬に向けた大学発ベンチャー基盤の確立」では、9分野1センターから13名、広域大学知的財産アドバイザー1名と学外の3施設から3名、計17名が参画している。本プロジェクト発足後3年経つが、この間進捗会議にて年2回行い議論を重ね、新規分子標的治療薬創薬に向けた4つの共同研究プロジェクトを昨年度に立ち上げた。2018年9月13日に開催されたAnnual Meeting-2018では、4つのプロジェクトの進捗報告（口頭発表）、個々の参画研究者の研究発表（ポスター発表）と特別講演を行った。本学学部生、大学院生、教職員および卒業生、併せて175名が参加した。

開会に際して、後藤直正学長から発足当初からの本プロジェクトの使命：①学内共同研究体制の確立、②若手研究者の育成、③研究成果を再確認するご挨拶をいただいた。引き続き、本プロジェクトの研究代表者である芦原から、今までの経過の概要が説明された。

後藤 直正 学長



引き続き、共同研究の進捗報告として、以下の4演題の発表がなされた。どの口頭発表においてもそれぞれ活発な質疑応答、議論がなされた。

1. マウス脳腫瘍幹細胞を用いたアセトゲニン誘導体がん治療薬の開発
2. Wnt/ β -catenin 経路阻害薬の創製
3. クマリン系がん転移抑制薬の創製
4. $A\beta$ 産生抑制および凝集阻害薬の創製

それぞれの進捗に差はあるものの、どのグループも着実に成果をあげており、マウスモデルでの検討に進んでおり、臨床試験での評価基準を検討しているグループや特許申請を計画推進しているグループもあった。

次に Poster Viewing として、各参画研究者の個々の研究発表が行われた。今年は 18 演題のエントリーがあり、ポスター会場とした愛学館 A33 講義室に

多くの学生や教員が発表に参加し、新規分子標的治療薬創薬研究の質疑応答を行った。

次に、本学 OB である生命科学インスティテュート 代表取締役社長の
木曾誠一先生から特別講演「Muse 細胞による修復医療の可能性 ～生命科学イ
ンスティテュートが切り開く次世代医療～」をいただ

いた。Muse 細胞は骨髄間葉系幹細胞由来で、三胚葉
への自発的分化能をゆする、極めてユニークな多能性
幹細胞で、講演では修復医療（再生医療）の実用化を
目指した Muse 細胞を用いた脳梗塞や心筋梗塞マウス
などへの研究成果をご提示いただいた。

木曾 誠一 先生



木曾先生は現在の医療保険制度において医療的価値のみならず、医薬品の薬価とのバランスにも考慮する必要があり、製品開発の段階から3つのable: “Valuable (アンメットメッディカルニーズに合致しているか) ”、“Accessible (広く医療に提供でき、適正な価格で、身近な場所で受けられる医療なのか) ”、“Sustainable (健全な事業として、医薬品を安定供給でき、将来にわたり提供し続けることができる医療なのか) ”を視野に入れ、展開することが重要出ることをお話しいただいた。講演後は活発な質疑応答がなされ、新規分子標的治療薬の

開発を視野にいれた本プロジェクトにとって、非常に有意義な特別講演であった。

引き続き、ご参加いただいた外部評価員である京都府立医科大学大学院
医学研究科 分子標的癌予防医学 酒井敏行教授、な
らびに京都大学大学院 薬学研究科 薬品合成化学分
野 高須清誠教授を代表して、高須教授から本 Annual
Meeting のご講評をいただいた。「昨年度より進捗が見
られ、京都薬科大学ならではの共同研究体制で研究が
なされている。残り 1 年半でさらなる進捗を期待す
る。」と、叱咤激励の総評をいただいた。

外部評価委員
高須 清誠 教授



最後に、合成・相互作用解析グループリーダー 薬
品化学分野 赤路健一教授から、本プロジェクトのさらな
る進捗、ならびにさらに全学を上げた共同研究を推進すべ
く邁進する、旨の言葉があり、盛会のうちに、本 Annual
Meeting は終了した。

赤路健一 教授



今後も定期的に進捗会議をもち、知財の獲得、上市を目指した分子標的治療薬候補化合物の創製を続け、さらに新たな“知の創造”も目指して本プロジェクトを遂行していく。

文責：芦原英司（研究代表者）

アセトゲニン班

小島直人先生（左）、中田 晋先生（右）



Wnt 班

服部恭尚先生（左）、若林亮介君（右）



転移班

杉山雄輝君（左）、長谷川功紀先生（右）



BACE1 班

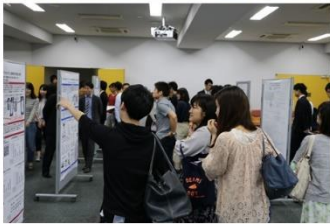
小林数也先生





Meeting風景

Poster Viewing



文部科学省 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
新規分子標的治療薬創薬に向けた
大学発ベンチャー基盤の確立
2018年度 Annual Meeting

日時: 2018年9月13日 (木) 13:50 ~ 17:30

場所: 京都薬科大学・愛学ホール (A31講義室) + A32講義室 (ポスター会場)

参加登録方法: 直接会場までお越し下さい (入場無料)。

学部生・大学院生・教職員どなたでもご自由に参加ください。



プログラム

- 13:50 開会挨拶 後藤 直正 (京都薬科大学・学長)
- 13:55 概要説明 研究代表者: 芦原 英司 (シーズ発掘・バリデーションGrリーダー)
- 14:10 口頭発表 「共同研究の進捗報告」
- 15:30 Poster Viewing
- 16:15 特別講演
「Muse細胞による修復医療の可能性
～生命科学インスティテュートが切り開く次世代医療～」
木曾 誠一 (生命科学インスティテュート 代表取締役社長)
- 17:15 総評
酒井 敏行 先生 (京都府立医科大学大学院 医学研究科 分子標的癌予防医学 教授)
高須 清誠 先生 (京都大学大学院 薬学研究科 薬品合成化学分野 教授)
- 17:25 閉会挨拶 赤路 健一 (合成・相互作用解析Grリーダー)

本プロジェクトは、京都薬科大学独自の薬効評価系と創薬化学研究基盤を有機的に融合させ、シーズの発掘・ライセンスアウトを目指しています。本シンポジウムは、採択後4年目の成果報告を目的として開催します。

連絡先: 〒607-8414 京都市山科区御陵中内町5
京都薬科大学 病態生理学分野
芦原 英司 (研究代表者)
TEL: 075-595-4706
E-mail: bunshihyoteki@mb.kyoto-phu.ac.jp



京都薬科大学